



山陽学園大学 (岡山県)

日本人学生との共修、体験学習を盛り込んだプログラム

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

1886年（明治19年）、山陽英和女学校として誕生した山陽学園は、現在、大学院、大学、短期大学、高校、中学校、短期大学付属幼稚園の6機関から構成される総合大学です。

大学は1994年に開学し、看護学部・総合人間学部（ビジネス心理学科、言語文化学科）・地域マネジメント学部の3学部、4学科で構成され、同じ敷地内には健康栄養学科及びこども育成学科を持つ短期大学、短期大学付属幼稚園もあります。大学、短期大学併せて学生数1,000人程度の小さな大学ですが、それだけアットホームは雰囲気、教員と学生の距離が近く、教員が親身になって相談に乗ってくれるという利点があります。

クラブ活動も盛んで、バレーボール部、卓球部、バドミントン部、軽音楽部、茶道部、児童文化部、日本語ボランティア部等が熱心に活動しています。日本語ボランティア部は、日本語・日本文化研修留学生や中長期留学生の日本語支援も行っており、日本での生活が順調に送れるようサポートもしています。

また、総合人間学部の言語文化学科・ビジネス心理学科には現在、中国、ベトナム、ミャンマー、アメリカからの留学生が在籍しており、留学生間の交流も盛んです。教職員も、アメリカやイギリスなどの欧米出身者、中国や韓国といったアジア出身者も在籍しています。

② 国際交流の実績

受け入れに関しては、韓国、台湾、ポーランド、ベトナム、フィリピンの大学間協定校や高校の姉妹縁組校から、中長期留学生、日本語・日本文化研修生を受け入れ、台湾や中国からはダブルディグリー生も受け入れています。派遣に関しては、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、フィリピン、韓国、台湾、ニュージーランド、ポーランドの協定校や姉妹縁組校に、中長期留学、語学留学、日本語教育実習、異文化理解実習で訪問をしています。

大学間交流協定校21校

姉妹縁組校2校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数 22人、日研生 1人

2024年：留学生数 25人、日研生 1人

2023年：留学生数 19人、日研生 1人

④ 地域の特徴

岡山県は「晴れの国、岡山」と言われるほど晴天日が多く、瀬戸内海の温暖な気候に恵まれた県です。フルーツ王国として昔から桃やぶどうが有名でしたが、近年では津山ホルモンうどん、蒜山焼きそば、日生の牡蠣のお好み焼きなどB級グルメ王国としても注目されています。その岡山県の南部に位置する、人口約70万人の県庁所在地・岡山市は 中国地方の交通の要で、四国・九州・山陰・関西 のいずれの地方に行くにも便利なだけでなく、日本三大庭園の一つである後楽園など、歴史的な見所も数多くあります。また、岡山市内には、県立美術館、オリエント美術館、林原美術館など多くの芸術関連施設があります。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特徴

日本語だけでなく、日本文化も深く学ぶことができます。小規模大学の特徴を生かし、学部生と同じ講義を受けることで、日本人学生や本学に留学をしている他の外国人学生と交流を図ることができます。

また、講義だけにとどまらず、クラブ活動や地域のイベントに参加することで、日本で多くの体験を積むことができます。このように学業と体験を融合させている点が本学の特徴です。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）



山陽学園大学
本館（左上）
図書館（右下）



④ 受講希望者の資格、条件等

- ・ J L P T : N2に合格している。
または同等のレベルであること。
- ・ 日本と母国の架け橋人材に相応しい者。

⑤ 達成目標

- ・ コース修了者はJLPTのN2以上の取得、または前回より高い点数取得を目標とする。
- ・ 修了レポートを作成し、履修した授業内で発表を行う。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月中旬 ～ 2027年8月下旬
（在籍期間：2026年9月21日 ～ 2027年9月20日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

- 9月：渡日、オリエンテーション（9月第3週頃）
10月：日本語・日本文化研修生歓迎会
創立記念式典参加 学内イベント
「平井の丘の祭り」参加
大学祭「はなみずき祭」参加
11月：海外協定校との交流会参加
12月：クリスマス会参加
1月：ホームビジット参加
2月：西大寺裸祭り見学
3月：卒業式見学
4月：入学式見学 中長期留学生歓迎会参加
学内イベント「春の祭り」参加
5月：日本語学校見学
日本語ボランティア部「春の遠足」参加
6月：オープンキャンパス参加
7月：七夕会参加
8月：うらじゃ祭り見学 修了式
8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

- ・ 必修科目として12単位（以下、Ⅰの科目を参照）、選択科目として16単位（以下、Ⅱ、Ⅲの科目を参照）、合計28単位以上を取得すること。ただし、必修科目の履修時間が重複し、履修ができない場合、他の科目履修で代替ができるものとする。
- ・ 上記28単位以上を取得した場合、成績証明書の発行可

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

- 以下、3体系を主として実施する。
- ・ 日本語能力向上のための科目
 - ・ 日本事情及び日本文化を知るための科目
 - ・ 日本を体験するアクティビティ科目

2) 研修・コース開設科目

Ⅰ) 必須科目（90分×15回）計12単位
日本語C～H、日本語日本事情A・Bは1科目1単位、
文章表現法A・Bは2単位
内容

- ①日本語C・日本語D：聴解、会話、文法、語彙
- ②日本語E・日本語F：読解（N1）
- ③日本語G・日本語H：読解（生教材・新聞）
- ④日本語日本事情A：日本社会を知る。
- ⑤日本語日本事情B：日本文化を知る。
- ⑥文章表現法Ⅰ：レポートの作成について学ぶ。
- ⑦文章表現法Ⅱ：レポートを作成する。

Ⅱ) 選択科目（90分×15回）各2単位
以下の①～④から選択
内容

- ①日本を知る科目
日本史、日本文学特講、日本文化論など
- ②日本と諸外国の交流について知る科目
日中交流史、朝鮮の歴史と文化など
- ③日本語教育関連科目
日本語教育概論、日本語教授法、日本語文法論、日本語音声学など
- ④その他

心理系、ビジネス系、情報系、英語系科目

Ⅲ) 見学、地域交流等の参加型科目

（90分×15回）各2単位

内容 ①異文化理解演習Ⅰ ②異文化理解演習Ⅱ
その他、下記に挙げる学内外の活動にも参加し、
修了レポートで報告する。

- ・ 日本語ボランティア部での活動
- ・ その他のクラブ活動等参加
- ・ 大学祭の参加及び見学
- ・ 「春の祭り」等、学内イベントの参加及び見学
- ・ 日本文化体験 茶道、書道、投扇興など

Ⅳ) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・ 日本語C～H、日本語日本事情A・Bを除き、すべて日本人との共修科目となる。

異文化理解演習Ⅱでは大学祭で発表する「日本と海外の比較」について、日本人学生と共同で調査し、ポスター発表を行う。



ポスター発表の様子

ベトナム、ミャンマーの学生とともに

日本とタイの制服の違いについて発表

⑪ 指導体制

- ・共生グローバル推進センターWG委員、日本語担当教員が主となって指導します。
- ・日本語ボランティア部の部員（主に総合人間学部言語文化学科の学生）が交流やイベントの計画を立てます。日本語ボランティア部員を中心に日本語会話クラスを開催しています。
- ・必修科目の担当教員は以下の通りです。
 - ①日本語C・日本語D：山田勇人
 - ②日本語E・日本語F：佐藤雅代
 - ③日本語G・日本語H：班偉
 - ④日本語・日本事情A：山田勇人
 - ⑤日本語・日本事情B：古川徹也、田辺大藏
 - ⑥文章表現法Ⅰ：佐藤雅代
 - ⑦文章表現法Ⅱ：田辺大藏
- ・その他の科目は、山陽学園大学の常勤・非常勤講師が担当します。



日本語学習のサポートも受けられる
ラーニングセンター



留学生をサポートする共生グローバル推進センター

■宿 舎

留学生向けの学生寮はありませんが、大学の周辺には学生向けのアパートが数多くあり、大学で紹介することも可能です。

アパートの場合、ワンルーム（8畳）、キッチン、バス、トイレ（バスとトイレはセパレート）で4万円程度（共益費込み）で借りられます。入居時に、敷金や不動産屋に支払う仲介手数料、鍵の交換費用などがかかります。また、退去時には清掃代などがかかります。家具（冷蔵庫・洗濯機・マットレス）のレンタルも可能です。

大学から岡山駅まではバスでの移動が可能です。自転車は大学で用意します。



学長に入学の挨拶



大学祭「はなみずき祭」では、日本語ボランティア部の展示に参加

■修了生へのフォローアップ

現時点では、本学の教員が日本語・日本文化研修留学生の国を訪問することがあった場合、修了生に会って様子を聞いたり、定期的にメールで連絡を取り合ったりするなどしてフォローアップに努めています。

今年度は23年度に本学に日研究生として来日したベトナム人学生の協定校で異文化理解実習を行い、本学の学生との交流等も行った。

また、在学時に知り合った学生と個別にネットワークを構築している研修生もあり、学生からも情報を得ています。

■問合せ先

<担当部署>

山陽学園大学 共生・グローバル推進センター

住所：〒703-8501 岡山県岡山市中区平井1-14-1

TEL：+81-86-272-6254（代表）

FAX：+81-86-273-3226（代表）

Email：for.stu@sguc.ac.jp（センター）

yamada_hayato@sguc.ac.jp（担当教員）

<ウェブサイト>

山陽学園大学：<https://www.sguc.ac.jp>